日刊 動労千葉

83, 3, 19

No. 1294

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二ー八（動力車会館）

（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

83春闘、労働者はいかに闘うのか

3・16労働者集会での、中野書記長の基調報告

三月十六日に開催された、動労千葉主催「3・16労働者集会」は千葉市民会館小ホールを埋めつくす五五〇名の結集により、大成功をかちとりました。本号では「83春闘、労働者はいかに闘うのか」と題して行われた、中野書記長の基調報告の要旨を紹介します。

決戦を迎えた三里塚ー国鉄ーいかなる立場で闘うのかー

いま千葉の国鉄労働者は、津田沼・幕張を中心に国労との完全共闘のもと、当局を圧倒して入浴闘争を闘いぬいている。

これは動労「本部」革マルが当局の手先となっている状況の中で、全国的に国労単独の闘いとして苦戦していることを考えれば、すばらしい闘いの陣形であることをまず報告したい。

そのうえで冒頭、三里塚の分裂問題について3・11定期委員会の決定に基づく動労千葉の立場を鮮明にしたい。

それは「国鉄労働者は鉄路を武器に、農民は土地を武器に闘う」という原則にたち、闘う敷地内農民の闘いを支持し、これと連帯して闘うということだ。当面、3・27現地集会に今までにない決意で取り組むということである。

動労「本部」革マルの打倒こそ、闘争爆発のカギ ー完全に敵の手先へと転落ー

今日、世界経済の深刻な危機は中曽根の登場による反動攻勢に象徴されるように、今までのやり方ではどうにもならない状況にきているということであり、中曽根は戦争に向け大軍拡、改憲の強行と左翼勢力を叩きつぶす攻撃を強めている。そして労働運動を破壊するために、「全民労協」を発足させた。しかし、国鉄労働運動と三里塚を叩きつぶさぬ限りうまくいかないから、ここに大変な攻撃がかかってきている。敵の攻撃が厳しくなり、反動が高まると必ず内部から屈服し生きのびようとする者がでてくる。

国鉄を見てもそうだ。

動労「本部」革マルは、いまや政府・自民党、国鉄当局の手先となり「ブルトレ」「現協」「57・11」を受け入れ、国労に攻撃をかけてきている。入浴闘争では当局に「鎖錠」を申し入れ、当局と一緒に「現認」のチェックをして「厳正処分」を要求するという事までやっている。

動労「本部」革マルは、ここまで堕落した。

われわれはそのことを見越して分離独立を勝ちとってきたのであり、「国鉄労働運動解体攻撃に立ち向うためには、敵の手先を叩きつぶさぬ限り一歩も前進しない」と訴えてきたことが、国鉄労働運動にとって今や決定的となっている。

敷地内を先頭に必勝の陣形をかちとった三里塚ー3・27総力で三里塚第一公園へー

三里塚も同じだ。本当の決戦局面の到来は、闘う側に本物かどうかを鋭く迫まる。そういう意味では、本当の二期決戦に必勝するための陣形が、強固に形成されたといえる。

二期着工攻撃は、本年九月のパイプライン完成をひかえて決戦を迎えており、これに恐怖する一部の人達の屈服・逃亡の動きが反対反盟を分裂させたということだ。

「石橋・内田問題」「成田用水問題」でも、同盟を屈服させられなかった敵が、分裂を目的として「一坪再共有化運動」をもちだしてきた。これを敷地内農民の反対を無視して強行したのだ。

三里塚闘争は、農民が農地を死守して闘う運動であり、「一坪再共有化運動」は土地を売る金もうけの運動であり、三里塚空港反対闘争ではない。

動労千葉が十八年の原則と伝統を継承する敷地内農民を支持するのは当り前だ。反対同盟が苦しいときこそ労農連帯の力を強めなければならない。

中江選挙闘争・三月反合闘争を総力で闘おう

こうした状況のなかで、三～四月の闘いは重要であり、国鉄、三里塚で勝ちぬき来たるべき決戦を有利な局面で闘おうではないか。

そのためにも第一に、動労千葉の最大の課題として中江選挙闘争に勝利しよう。ここで負けたら大変な反動が襲いかかることは必至であり、動労千葉の命運をかけた闘いとして総力で闘おう。

第二に、3・27三里塚第一公園への圧倒的結集を勝ちとろう。

第三に、入浴闘争を中心とする三月闘争の大爆発を国労共闘を一層強めてかちとろう。

この闘いが厚い反動を打ち破るテコとなるんだということに確信をもって、この三～四月を全力で闘いぬこう。

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！